

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：健康生命薬科学科

資格：教授

氏名：稲本 浄文

研究分野	研究内容のキーワード
有機合成化学	遷移金属触媒, 炭素-水素結合官能基化, 複素環化合物
学位	最終学歴
博士(薬学)	東北大学大学院薬学研究科 博士課程前期2年の課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 「発展医薬品化学」	2018年度から	薬学科4年次学生対象の本講義において、有機化学がいかにかに医薬品のもつ薬理作用を理解するために役立つかを、応用的考察力養成の観点から、分野横断的内容の講義の中で重点的な説明をおこなっている。過去の共用試験および国家試験に出題された問題の提示・解説をおこなうと同時に、特に重要な事項については、問題演習の補助プリントを配布することで、学生自らが手を動かし、内容を十分に理解できるよう努めている。
2. 「有機化学 III」	2016年度から	薬学科2年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストを行うことで、当日の講義内容の定着をはかっている。またこれを講義後に回収し、解答内容を確認することで、常に「学生の理解度」および「講義内容の適切さ」の把握につとめ、担当クラスの実状に合わせた最適な内容となるよう、柔軟な講義実施をおこなっている。MUSESを用いた講義内容および小テストのポイント解説による講義の補完も実施している。理解の不足している学生に対する質問対応の場を設けるとともに、余力のある学生に対しての課題提示もおこない、さらなる知識の深化およびモチベーション向上をはかっている。
3. 「創薬化学の概論」	2015年度から2017年度	(2018年度から、新カリキュラム科目「発展医薬品化学」へ移行。)
4. 「応用有機化学 II」	2014年度から	健康生命薬科学科2年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストに加え、予習的・復習的な内容の課題を与えることで、講義内容の定着をはかっている。講義中は、積極的に学生からの発言機会を増やすよう努め、緊張感とモチベーションを高めるとともに、コミュニケーション能力や発表力、とっさの判断力の育成も目指している。有機化学を単なる基礎科目としてとらえるのではなく、「実際の医薬品合成における有機合成の役割」や「有機化合物がいかにかにして医薬品として機能しているか」など、他分野とリンクする内容の解説もおりませず、薬学部生としてこの後学ぶ応用的科目の土台作りをおこなっている。
5. 学位論文の指導	2014年度から	研究室配属の学部学生および大学院学生の研究指導では、研究内容における日々のディスカッションを通し、研究の遂行はもちろんのこと、学生の問題解決能力・コミュニケーション能力の育成にも注力している。積極的な学会発表を促すことで発表力・表現能力の向上も目指しており、最終的に学生自らが能動的に、研究の計画立案から実施、得られた成果の評価をおこなえるようになるべく、指導している。得られた成果を卒業論文・修士論文としてまとめると同時に、いくつかの論文投稿もおこない、採択されている。
6. 「有機化合物の骨格と性質 II」	2014年度から2015年度	(2016年度から、新カリキュラム科目「有機化学 III」へ移行。)
7. 「有機化合物をつくる」および「基礎有機化学実験」(実習科目)	2014年度から	薬学科2年次および健康生命薬科学科2年次学生対象の本実習科目において、基礎的な実験手技を修得させるのと同時に、扱う有機化合物の化学構造からそれらの物質としての物理的・化学的性質を系統的に理解できるようになるべく、重点的な指導をおこなっている。薬学部卒業生に要求される「広範な化合物の知識と、それを利用した応用可能な化合物取り扱いに関する技術」の修得を指向した解説に、特に注力している。
8. 「有機合成化学」	2014年度から	健康生命薬科学科3年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストを行うことで、学生の理解度を適宜確かめながら授業を進めている。また、一定の範囲が終了したタイミングで確認テストもおこない、講義内容のさらなる定着をはかっている。化学構造や化学反応への理解を深化させるため、適宜予習的・復習的内容の課題も課している。講義中における学生への問いかけなどによる積極的な双方向型授業をおこなうことにより、学生の発表力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を目指している。
2 作成した教科書、教材		
1. 「発展医薬品化学」における演習問題	2018年度から	講義中の重要な事項について、問題演習の補助プリント

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2. 「有機化学 III」における小テスト	2016年度から	を作成した。
3. 「薬学基礎演習 III」における演習問題	2016年度から	授業回数分の小テストを作成した。
4. 「薬学基礎演習 I」における演習問題	2016年度	授業回数分の演習問題を作成した。
5. 「有機化学実験（有機化合物をつくる，基礎有機化学実験）」におけるテキスト	2015年度から	授業回数分の演習問題を作成した。
6. 「応用有機化学 II」における小テスト	2014年度から	学生実習に使用するテキストを作成した。
7. 「有機合成化学」における小テスト	2014年度から	授業回数分の小テストを作成した。
8. 「薬学基礎演習 II」における演習問題	2014年度から2016年度まで	授業回数分の演習問題を作成した。
9. Cross Coupling and Heck-Type Reactions 2	2013年03月	遷移金属触媒を用いた炭素－水素結合（C-H）官能基化による炭素－酸素結合および炭素－硫黄結合形成反応に関する章（pp. 395-437）を担当。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 幹事懇談会	2019年度から（年2回実施）	教務委員として幹事懇談会に出席し，幹事学生と意見交換をおこなった。
2. 学生幹事長との意見交換	2019年度から	教務委員として薬学部の学生幹事長と面談し，幹事懇談会の議題および学生・教員双方がかかえている問題点等についての意見交換をおこなった。
3. 西宮市共通単位講座	2018年07月04日	西宮市共通単位講座「薬学よもやま話（前後期，各15回）」の1回分を担当し，「化学の目で見たくすり」というタイトルのもと，受講者に薬学における化学の重要性を説明すると同時に，薬学の果たす社会的役割についても解説した。
4. 担任クラス指導	2016年度から	薬学科6年制コースのクラス担任として，学生指導をおこなっている。
5. 附属高校3年生「科学演習実験 III」	2014年度から	附属高校の3年生科目である「科学演習実験 III」を，毎年1回分担当している。「4-フェニル安息香酸の合成」実験により，ノーベル化学賞受賞の対象研究である Suzuki カップリング反応を体験することで，有機化学が薬学分野および製薬業界で果たす役割について解説している。
6. 薬学科5年生・長期薬局病院実務実習	2014年度から	円滑な実習実施のため，指導薬剤師との調整をおこなうとともに，担当学生の指導にあたっている。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 薬剤師免許	1999年04月	取得
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 米国マサチューセッツ工科大学・博士研究員	2006年04月から2007年01月	Prof. Gregory C. Fu 研究室にて「不活性脂肪族ハロゲン化物を用いたニッケル触媒クロスカップリング反応」に関する研究に従事
4 その他		
1. 地域別教育懇談会（広島）	2019年08月24日	薬学部・教務委員として参画
2. 教務委員	2019年04月から	拝命
3. 指定校訪問	2019年度	3校へ訪問 （大阪市立高等学校・大阪府立豊中高等学校・親和女子高等学校）
4. 模擬授業（兵庫県立伊丹高等学校）	2018年07月17日	「薬学での学び～『基礎』から『最先端』まで」というテーマにて実施
5. 女性研究者研究活動支援委員	2018年04月から2019年03月	拝命
6. 模擬授業（百合学院高等学校）	2018年03月14日	「薬学での学び～『基礎』から『最先端』まで」というテーマにて実施
7. 指定校訪問	2018年度	3校へ訪問 （兵庫県立八鹿高等学校・兵庫県立須磨東高等学校・親和女子高等学校）
8. 出前授業	2016年度から	大阪府立今宮高等学校の3年生科目である「医薬学入門」を，他の薬学部教員と共同で担当
9. 薬学部・作業環境測定	2016年度から（年2回実施）	薬学部内の取りまとめ，および測定依頼先との調整
10. 地域別教育懇談会（本部会場）	2016年度から	個人懇談の対応
11. 指定校訪問	2016年度	6校へ訪問 （近畿大学附属新宮高等学校・近畿大学附属豊岡高等学校・兵庫県立八鹿高等学校・兵庫県立須磨東高等学校・

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
12. 第74回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿	2014年09月14日から2014年09月15日	雲雀丘学園高等学校・親和女子高等学校) 受講
13. 入試問題作成委員	2014年04月から2017年03月	拝命 (2016年度は薬学部内取りまとめ役を担当)
14. 危険物倉庫・廃棄物管理委員	2014年04月から	拝命 (2016年度から委員長を担当)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. Cross Coupling and Heck-Type Reactions 2	共	2013年03月	Thieme	遷移金属触媒を用いた炭素-水素結合 (C-H) 官能基化による炭素-酸素結合および炭素-硫黄結合形成反応に関する章 (pp. 395-437) を担当。 (共著者: John F. Hartwig, Melanie S. Sanford 他)

2 学位論文				
1. 効率的複素環構築法の開発を指向した新規遷移金属触媒反応の開拓	単	2006年01月	東北大学	遷移金属触媒として「パラジウム」および「ニッケル」を用いた新規素反応の開発と、それらを基盤とした効率的複素環構築法の開拓に関する博士論文。

3 学術論文				
1. A Solvent-Dependent Chirality-Switchable Thia-Michael Addition to α, β -Unsaturated Carboxylic Acids Using a Chiral Multifunctional Thiourea Catalyst	共	2020年06月	Chemical Science 2020, 11(21), 5572-5576 (Royal Society of Chemistry)	ボロン酸部位を有するチオウレア触媒を用いた、アリールチオール Michael 付加反応において、溶媒をスイッチすることで得られる生成物の立体配置をコントロールできることを見出した。 (Noboru Hayama, Yusuke Kobayashi, Eriko Sekimoto, Anna Miyazaki, Kiyofumi Inamoto, Tetsutaro Kimachi, and Yoshiji Takemoto*)
2. Retention and Molecular-Recognition Mechanisms of Molecularly Imprinted Polymers for Promazine Derivatives (査読付)	共	2019年12月	Talanta 2019, 205(120-149), 1-9 (Elsevier)	プロマジン誘導体に対するモレキュラーインプリントポリマーを合成し、それらの分子認識能の評価をおこなった。 (Jun Haginaka, * Kanae Nishimura, Tetsutaro Kimachi, Kiyofumi Inamoto, Yoshiji Takemoto, and Yusuke Kobayashi)
3. Rhodium-Catalyzed Synthesis of Benzo[b]thiophene-3-Carboxamides via Cyclization of (<i>ortho</i> -Alkynyl)phenyl Sulfides in the Presence of Isocyanates (査読付)	共	2019年04月	Chemistry Letters 2019, 48(5), 468-470 (The Chemical Society of Japan)	ロジウム触媒によるヘテロ環化反応を利用した、新規な benzo[b]thiophene-3-carboxiamide 誘導体合成法を見出した。 (Akiho Mizukami, Maika Tsugita, Mako Shimora, Saki Tanaka, Noboru Hayama, Tetsutaro Kimachi, and Kiyofumi Inamoto*)
4. Copper-Catalyzed Intramolecular C-H Amination: A New Entry to Substituted Xanthine Derivatives (査読付)	共	2017年09月	Synthesis 2017, 49(18), 4183-4190 (Thieme)	ウラシル骨格を有するベンズアミジン化合物に対して銅触媒を作用させることにより、分子内 C-H アミノ化反応を経由したキサントシン類合成が可能であることを見出した。 (Maki Shimizu, Noboru Hayama, Tetsutaro Kimachi, and Kiyofumi Inamoto*)
5. Simultaneous Functionalization and Cyclization of 2-Ethynylaniline Derivatives to Indoles (査読付)	共	2017年04月	Heterocycles 2017, 95(2), 920-933 (The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry)	2-エチニルアニリンに対する、銅塩を用いた「環化-官能基化プロセス」により、高度に官能基化されたインドール化合物が収率よく得られることを明らかにした。 (Kou Hiroya, * Shin Itoh, Kiyofumi Inamoto, Hiroki Shigehisa, and Takao Sakamoto)
6. Palladium-Catalyzed Highly Chemoselective Intramolecular C-H Aminocarbonylation of Phenethylamines to Six-Membered Benzolactams (査読付)	共	2016年06月	Organic Letters 2016, 18(11), 2712-2715 (American Chemical Society)	パラジウム触媒による C-Br 結合存在下での選択的分子内 C-H アミノカルボニル化反応により、臭素原子を有する 6 員環ベンゾラクタム類の合成を行った。 (Hiroshi Taneda, Kiyofumi Inamoto, * and Yoshinori Kondo*)
7. Unusual, Chemoselective Etherification of 2-Hydroxy-1,4-naphthoquinone Derivatives Utilizing Alkoxyethyl Chlorides: Scope, Mechanism and Application to the Synthesis of Biologically Active Natural Product (\pm)-Lantalucratin C (査読付)	共	2016年03月	Tetrahedron 2016, 72(11), 1423-1432 (Elsevier)	アルコキシアルキルクロライドと塩基を用いることで、2-ヒドロキシ-1,4-ナフトキノンのエーテル化が進行することを明らかにした。 (Tokutaro Ogata, * Tomoyo Yoshida, Maki Shimizu, Manami Tanaka, Chie Fukuhara, Junko Ishii, Arisa Nishiuchi, Kiyofumi Inamoto, and Tetsutaro Kimachi*)
8. Rhodium-Catalyzed Cyclization of 2-Ethynylanilines in the Presence of Isocyanates: Approach toward Indole-3-carboxamides (査読付)	共	2016年02月	Organic Letters 2016, 18(4), 748-751 (American Chemical Society)	ロジウム触媒を用いた 2-エチニルアニリン誘導体の閉環反応をイソシアネート化合物存在下行うことにより、インドール-3-カルボキサミド化合物が効率的に得られることを見出した。 (Akiho Mizukami, Yumi Ise, Tetsutaro Kimachi, and Kiyofumi Inamoto*)
9. The First Enantioselective Total Synthesis of Lantalucratin	共	2015年08月	Tetrahedron 2015, 71(38), 6672-6680	抗腫瘍活性を示す天然物である lantalucratin C の、初の不斉全合成と絶対配置の決定を達成した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
C and Determination of Its Absolute Configuration (査読付)			(Elsevier)	(Tokutaro Ogata,* Manami Tanaka, Momoe Ishigaki, Maki Shimizu, Arisa Nishiuchi, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , and Tetsutaro Kimachi*)
10. Unusual <i>O</i> -Alkylation of 2-Hydroxy-1,4-naphthoquinone Utilizing Alkoxyethyl Chlorides (査読付)	共	2015年07月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin 2015, 63(7), 485-488 (The Pharmaceutical Society of Japan)	2-ヒドロキシ-1,4-ナフトキノンとメトキシメチルクロリドの反応により、通常の <i>O</i> -MOM 化体に加え、予期しない <i>O</i> -メチル化体が生成することが判明した。詳細な反応条件のスクリーニングの結果、用いる塩基を変えることで、これらの化合物を高選択的に作りわけることが可能であることが分かった。 (Tokutaro Ogata,* Tomoyo Yoshida, Manami Tanaka, Chie Fukuhara, Maki Shimizu, Junko Ishii, Arisa Nishiuchi, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , and Tetsutaro Kimachi*)
11. Use of Tetramethylammonium Fluoride (TMAF) and Alkali Metal Alkoxides as an Activator for Catalytic Deprotonative Functionalization of Heteroaromatic C(sp ²)-H Bonds (査読付)	共	2014年10月	Tetrahedron 2014, 70(43), 7917-7922 (Elsevier)	TMAF またはアルカリ金属アルコキシドを活性化剤として用いることで、オニウムアミド塩基による芳香族脱プロトン化が円滑に進行し、ケトンやアルデヒドなどの求電子剤との付加体が収率よく得られることを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Hitomi Okawa, Shoko Kikkawa, and Yoshinori Kondo*)
12. Hg ²⁺ -Trapping Beads: Hg ²⁺ -Specific Recognition through Thymine-Hg(II)-Thymine Base Pairing (査読付)	共	2014年07月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin 2014, 62(7), 709-712 (The Pharmaceutical Society of Japan)	オリゴチミジン側鎖を有するポリスチレンビーズを合成し、それが水銀イオン補足剤として有効に機能することを見出した。 (Mitsuhiro Kuriyama, Kaichiro Haruta, Takenori Dairaku, Takuya Kawamura, Shoko Kikkawa, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , Hirokazu Tsukamoto, Yoshinori Kondo, Hidetaka Torigoe, Itaru Okamoto, Akira Ono, Eugene Hayato Morita,* and Yoshiyuki Tanaka*)
13. Direct Condensation of Functionalized sp ³ Carbons with Formilides for Enamine Synthesis Using an <i>in situ</i> Generated HMD S Amide Catalyst (査読付)	共	2014年06月	Chemical Communications 2014, 50(49), 6523-6525 (Royal Society of Chemistry)	トリメチルシリルアミンと触媒量のセシウムフルオリドから系内で発生する HMD S アミド塩基を用いることで、官能基化されたエナミン類が簡便に合成できることを見出した。 (Hiroshi Taneda, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , and Yoshinori Kondo*)
14. Desilylative Carboxylation of Aryltrimethylsilanes Using CO ₂ in the Presence of Catalytic Phosphazanium Salt (査読付)	共	2014年04月	Chemistry Letters 2014, 43(4), 477-479 (The Chemical Society of Japan)	ホスファゼニウム塩を用いるアリールトリメチルシラン化合物の「脱シリル化-二酸化炭素固定化」プロセスを利用した、簡便なアリールカルボン酸合成法を確立した。 (Misato Yonemoto-Kobayashi, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , and Yoshinori Kondo*)
15. Facile Deprotection of Dithioacetals by Using a Novel 1,4-Benzoquinone/cat. NaI System (査読付)	共	2013年11月	Tetrahedron 2013, 69(44), 9192-9199 (Elsevier)	1,4-ベンゾキノンと触媒量の NaI の組み合わせが、ジチオアセタール類の脱保護に有効であることを明らかにした。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Tetsuya Yamada, Sei-ichi Kato, Shoko Kikkawa, and Yoshinori Kondo*)
16. Ruthenium-Catalyzed Carbonylative C-H Cyclization of 2-Arylpiphenols: A Novel Synthetic Route to 6 <i>H</i> -Dibenzo[<i>b</i> , <i>d</i>]pyran-6-ones (査読付)	共	2013年08月	Organic Letters 2013, 15(15), 3962-3965 (American Chemical Society)	ルテニウム触媒による一酸化炭素挿入を介した C-H 閉環反応を利用し、生理活性化合物として広く存在する複素環であるジベンゾピラノン骨格を効率的に合成できることを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Jun Kadokawa, and Yoshinori Kondo*)
17. Organocatalytic Functionalization of Heteroaromatic <i>N</i> -Oxides with C-Nucleophiles Using <i>in situ</i> Generated Onium Amide Bases (査読付)	共	2013年06月	Organic & Biomolecular Chemistry 2013, 11(27), 4438-4441 (Royal Society of Chemistry)	系内発生のおニウムアミド塩基により、メタルフリー条件下における <i>N</i> -オキシド類のアルファ位アルキル化およびヘテロアリール化を達成した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Yuta Araki, Shoko Kikkawa, Misato Yonemoto, Yoshiyuki Tanaka, and Yoshinori Kondo*)
18. Carboxylation of Alkynylsilanes with Carbon Dioxide Mediated by Cesium Fluoride in DMSO (査読付)	共	2013年05月	Organic & Biomolecular Chemistry 2013, 11(23), 3773-3775 (Royal Society of Chemistry)	アルキニルシランのセシウムフルオリドによる活性化を利用した二酸化炭素固定化を行った。 (Misato Yonemoto-Kobayashi, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , Yoshiyuki Tanaka, and Yoshinori Kondo*)
19. Organocatalytic Deprotonative Functionalization of C(sp ²)-H and C(sp ³)-H Bonds Using <i>in situ</i> Generated Onium Amide Bases (査読付)	共	2012年09月	Chemical Communications 2012, 48(78), 9771-9773 (Royal Society of Chemistry)	アミノシランとフッ化オニウムより系内で生成するオニウムアミド塩基を用いた、複素環類の脱プロトン化と続く求電子剤との反応を達成した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Hitomi Okawa, Hiroshi Taneda, Maomi Sato, Yutaro Hirono, Misato Yonemoto, Shoko Kikkawa, and Yoshinori Kondo*)
20. Efficient Use of a Surfactant for Copper-Catalyzed Coupling Reaction of Arylboronic Acids with Imidazoles in Water (査読付)	共	2012年09月	Tetrahedron 2012, 68(38), 7794-7798 (Elsevier)	界面活性剤使用により、水中での銅触媒 Chan-Lam カップリングを実現した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Kanako Nozawa, Jun Kadokawa, and Yoshinori Kondo*)
21. A Highly Sensitive Fluorescence Method Reveals the Presence of Palladium in a Cross-Coupling	共	2012年06月	Tetrahedron Letters 2012, 53(25), 3147-3148	超高感度蛍光法による、反応系中の痕跡量のパラジウムの定量。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> ,* Laura D. Campbell, Takayuki

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ng Reaction Mixture Not Treated with Transition Metals (査読付)			(Elsevier)	Doi, and Kazunori Koide*)
22. Palladium-Catalyzed C-H Cyclization in Water: A Milder Route to 2-Arylbenthiazoles (査読付)	共	2012年06月	Synlett 2012, 23(11), 1678-1682 (Thieme)	パラジウム触媒 C-H 閉環反応による 2-アリアルベンゾチアゾール合成が、穏和な条件下「水中」で行えることを見出した。 (Kiyofumi Inamoto,* Kanako Nozawa, and Yoshinori Kondo*)
23. Synthesis of 3-Carboxylated Indoles through a Tandem Process Involving Cyclization of 2-Ethynylanilines Followed by CO ₂ Fixation in the Absence of Transition Metal Catalysts (査読付)	共	2012年05月	Organic Letters 2012, 14(10), 2622-2625 (American Chemical Society)	メタルフリー条件下、2-エチニルアニリン類の閉環と続く 3 位での二酸化炭素固定化というタンデム型プロセスを利用した、3-カルボキシインドール類合成。 (Kiyofumi Inamoto,* Narumi Asano, Yuka Nakamura, Misato Yonemoto, and Yoshinori Kondo*)
24. Tandem-Type Pd(II)-Catalyzed Oxidative Heck Reaction/Intramolecular C-H Amidation Sequence: A Novel Route to 4-Aryl-2-Quinolones (査読付)	共	2012年04月	Chemical Communications 2012, 48(36), 4332-4334 (Royal Society of Chemistry)	酸化的 Heck 反応と続く分子内 C-H アミド化というタンデムプロセスを基盤とする 2-キノリノン類合成法の開発を行った。 (Kiyofumi Inamoto,* Junpei Kawasaki, Kou Hiroya, Yoshinori Kondo, and Takayuki Doi*)
25. A Copper-Based Catalytic System for Carboxylation of Terminal Alkynes: Synthesis of Alkyl 2-Alkynoates (査読付)	共	2012年02月	Organic & Biomolecular Chemistry 2012, 10(8), 1514-1516 (Royal Society of Chemistry)	末端アセチレン類の二酸化炭素によるカルボキシル化を、銅触媒を用いることで達成した。 (Kiyofumi Inamoto,* Narumi Asano, Koji Kobayashi, Misato Yonemoto, and Yoshinori Kondo*)
26. Use of Dimethyl Carbonate as a Solvent Greatly Enhances the Biaryl Coupling of Aryl Iodides and Organoboron Reagents without Adding Any Transition Metal Catalysts (査読付)	共	2012年02月	Chemical Communications 2012, 48(23), 2912-2914 (Royal Society of Chemistry)	ジメチルカーボネートを溶媒に用いることで、Suzuki-Miyaura カップリングが遷移金属触媒を添加せずとも進行することが明らかとなった。 (Kiyofumi Inamoto,* Chisa Hasegawa, Kou Hiroya, Yoshinori Kondo, Takao Osako, Yasuhiro Uozumi, and Takayuki Doi*)
27. Micellar System in Copper-Catalyzed Hydroxylation of Arylboric Acids: Facile Access to Phenols (査読付)	共	2011年10月	Chemical Communications 2011, 47(42), 11775-11777 (Royal Society of Chemistry)	水溶液中での芳香族ボロン酸のフェノールへの変換反応が、界面活性剤存在下進行することを見出した。 (Kiyofumi Inamoto,* Kanako Nozawa, Misato Yonemoto, and Yoshinori Kondo*)
28. Total Synthesis of Optically Active Lycopladine A by Utilizing Diastereoselective Protection of Carbonyl Group in a 1,3-Cyclohexanedione Derivative (査読付)	共	2011年05月	The Journal of Organic Chemistry 2011, 76(11), 4522-4532 (American Chemical Society)	天然物 'lycopladine A' の全合成を達成した。 (Kou Hiroya,* Yoshihiro Suwa, Yusuke Ichihashi, Kiyofumi Inamoto, and Takayuki Doi)
29. Use of Molecular Oxygen as a Reoxidant in the Synthesis of 2-Substituted Benzothiazoles via Palladium-Catalyzed C-H Functionalization/Intramolecular C-S Bond Formation (査読付)	共	2010年10月	Advanced Synthesis & Catalysis 2010, 352(14-15), 2643-2655 (Wiley)	酸素をクリーンな酸化剤として用いた、パラジウム触媒 C-H 官能基化～分子内 C-S 形成プロセスによるベンゾチアゾール合成。 (Kiyofumi Inamoto,* Chisa Hasegawa, Junpei Kawasaki, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
30. Facile Conversion of Thioamides to the Corresponding Amides in the Presence of Tetrabutylammonium Bromide (査読付)	共	2010年09月	Synthesis 2010, (18), 3087-3090 (Thieme)	テトラブチルアンモニウムブロミドを用いた、様々なチオアミド類の脱硫反応による新規アミド化合物合成法の開発。 (Kiyofumi Inamoto,* Mitsugu Shiraishi, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
31. Facile Synthesis of Asymmetric Quaternary Centers Based on Diastereoselective Protection of the Carbonyl Group at the Symmetrical Position (査読付)	共	2010年07月	Tetrahedron Letters 2010, 51(29), 3728-3731 (Elsevier)	対称性化合物である 1,3-シクロアルカンジオンのジアステレオ選択的なアセタール形成反応を用いる不斉第四級炭素構築法の開発。 (Kou Hiroya,* Yusuke Ichihashi, Yoshihiro Suwa, Tetsuro Ikai, Kiyofumi Inamoto, and Takayuki Doi)
32. Palladium-Catalyzed Intramolecular Amidation of C(sp ²)-H Bonds: Synthesis of 4-Aryl-2-quinolones (査読付)	共	2010年06月	The Journal of Organic Chemistry 2010, 75(11), 3900-3903 (American Chemical Society)	パラジウム触媒を用いた C-H 官能基化～分子内アミド化による 4-アリアル-2-キノリノン合成。 (Kiyofumi Inamoto,* Tadataka Saito, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
33. Development of Diastereoselective Birch Reduction-Alkylation Reactions of Bi- and Tricyclic <i>beta</i> -Alkoxy- <i>alpha</i> , <i>beta</i> -unsaturated Ketones (査読付)	共	2009年09月	The Journal of Organic Chemistry 2009, 74(17), 6623-6630 (American Chemical Society)	二環性 <i>alpha</i> -アルコキシ- <i>alpha</i> , <i>beta</i> -不飽和カルボニル化合物に対するジアステレオ選択的な Birch 還元-アルキル化プロセスにより、新規な不斉第四級炭素構築法を確立した。 (Kou Hiroya,* Yusuke Ichihashi, Ai Furutono, Kiyofumi Inamoto, Takao Sakamoto, and Takayuki Doi)
34. NHC (N-Heterocyclic Carbene)-Derived Nickel-Pincer Complexes: Efficient and Applicable Catalysts for Suzuki-Miyaura Coupling Reactions of Aryl/Alkenyl	共	2009年05月	European Journal of Organic Chemistry 2009, (14), 2251-2261 (Wiley)	ビスカルベン型ニッケル-ピンサー錯体の触媒活性評価により、反応性の低い芳香族トシレート・メシレート類を求電子剤とする Suzuki-Miyaura カップリング反応が高収率で進行することが明らかとなった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Tosylates and Mesylates (査読付)				(Jun-ichi Kuroda, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
35. Synthesis of the Core Ring System of Awajanomycin from <i>N</i> -Boc-3-methoxycarbonyl-2-pyridinone (査読付)	共	2009年05月	Tetrahedron Letters 2009, 50(18), 2115-2118 (Elsevier)	Lewis 酸触媒存在下における 2-ピリジノンとシリルエノールエーテルの立体選択的付加反応を鍵とする、天然物 awajanomycin の核となる環構造部分の合成。 (Kou Hiroya, * Kei Kawamoto, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , Takao Sakamoto, and Takayuki Doi)
36. Pincer-type Bis(carbene)-Derived Complexes of Nickel(II): Synthesis, Structure, and Catalytic Activity (査読付)	共	2009年02月	Journal of Organometallic Chemistry 2009, 694(3), 389-396 (Elsevier)	ビスカルベン型ニッケル-ピンサー錯体群の新規合成と X 線結晶構造解析・NMR 等の分光学的手段による詳細な構造決定、およびそれらの Suzuki-Miyaura カップリングにおける触媒活性の評価。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Jun-ichi Kuroda, Eunsang Kwon, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
37. Synthesis of 6Z-Pandanamine by Regioselective Cyclization Reaction of 2-En-4-ynoic Acid Derivatives Promoted by Weak Base (査読付)	共	2009年01月	Heterocycles 2009, 77(1), 493-504 (The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry)	塩基をプロモーターとする 2-エン-4-インカルボン酸の位置選択的環化反応を鍵とする、天然物 6Z-pandanamine の全合成。 (Kou Hiroya, * Kazuya Takuma, <u>Kiyofumi Inamoto</u> , and Takayuki Doi)
38. A New Approach to 3-Substituted Indoles through Pd-Catalyzed C-H Activation Followed by Intramolecular Amination Reaction of Enamines (査読付)	共	2008年12月	Synlett 2008, (20), 3157-3162 (Thieme)	エナミド類のパラジウム触媒分子内 C-H アミノ化反応を利用したインドール合成。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Tadataka Saito, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
39. Palladium-Catalyzed Direct Synthesis of Benzo[<i>b</i>]thiophenes from Thioenols (査読付)	共	2008年11月	Chemical Communications 2008, (43), 5529-5531 (Royal Society of Chemistry)	チオエノール類の閉環反応によるベンゾチオフェン環構築がパラジウム触媒を用いることで円滑に進行することを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Yukari Arai, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
40. Palladium-Catalyzed Synthesis of 2-Substituted Benzothiazoles via a C-H Functionalization/Intramolecular C-S Bond Formation Process (査読付)	共	2008年11月	Organic Letters 2008, 10(22), 5147-5150 (American Chemical Society)	パラジウム触媒存在下、C-H 官能基化/分子内 C-S 結合形成反応を経由する、チオベンズアニリド類からのベンゾチアゾール化合物合成法の開発。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Chisa Hasegawa, Kou Hiroya, and Takayuki Doi*)
41. Catalytic Activities of a Bis(carbene)-Derived Nickel(II)-Pincer Complex in Kumada-Tamao-Corriu and Suzuki-Miyaura Coupling Reactions in the Synthesis of Biaryl Compounds (査読付)	共	2007年09月	Synthesis 2007, (18), 2853-2861 (Thieme)	ビスカルベン型ニッケルピンサー錯体が、Suzuki-Miyaura カップリングおよび Kumada-Tamao-Corriu カップリングの優れた触媒となることを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Jun-ichi Kuroda, Takao Sakamoto, and Kou Hiroya)
42. Palladium-Catalyzed C-H Activation/Intramolecular Amination Reaction: A New Route to 3-Aryl/Alkylindazoles (査読付)	共	2007年07月	Organic Letters 2007, 9(15), 2931-2934 (American Chemical Society)	パラジウム触媒による C-H アミノ化反応を利用した、ヒドラゾン化合物の閉環反応による新規インダゾール骨格構築法。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Tadataka Saito, Mika Katsuno, Takao Sakamoto, and Kou Hiroya*)
43. Synthesis of 3-Substituted Indazoles and Benzoisoxazoles via Pd-Catalyzed Cyclization Reactions: Application to the Synthesis of Nigellidine (査読付)	共	2007年03月	Tetrahedron 2007, 63(12), 2695-2711 (Elsevier)	パラジウム触媒分子内炭素-窒素結合および炭素-酸素結合形成反応を利用した、3 位置換インダゾールおよびベンゾイソキサゾール化合物合成および本手法を利用する天然物 nigellidine の全合成。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Mika Katsuno, Takashi Yoshino, Yukari Arai, Kou Hiroya, * and Takao Sakamoto)
44. Synthesis and Catalytic Activity of a Pincer-Type Bis(imidazolylidene) Nickel(II) Complex (査読付)	共	2006年06月	Organometallics 2006, 25(12), 3095-3098 (American Chemical Society)	ニッケルを中心金属とするビスカルベン型ピンサー錯体の新規合成と構造決定、および触媒的活用。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Jun-ichi Kuroda, Kou Hiroya, Yukio Noda, Masashi Watanabe, and Takao Sakamoto)
45. Highly Regioselective Palladium-Catalyzed Annulation Reactions of Heteroatom-Substituted Allenes for Synthesis of Condensed Heterocycles (査読付)	共	2005年11月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin 2005, 53(11), 1502-1507 (The Pharmaceutical Society of Japan)	アルファ位にヘテロ原子 (酸素または窒素原子) を有するアレン類の芳香族ハロゲン化物とのパラジウム触媒環化反応が高位置選択的に進行し、単一の複素環化合物を与えることを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , Akio Yamamoto, Kazutoshi Ohnawa, Kou Hiroya, * and Takao Sakamoto)
46. Highly Efficient Nickel-Catalyzed Heck Reaction Using Ni(acac) ₂ /N-Heterocyclic Carbene Catalyst (査読付)	共	2005年06月	Synlett 2005, (10), 1624-1626 (Thieme)	N-複素環式カルベンをリガンドとして用いることで、進行が困難であるとされてきたニッケル触媒による Mizoroki-Heck 反応が円滑に進行することを見出した。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , * Jun-ichi Kuroda, Tomohiro Danjo, and Takao Sakamoto)
47. Efficient Synthesis of 3-Substituted Indazoles Using Pd-Catalyzed Intramolecular Amination Reaction of <i>N</i> -Tosylhydrazones (査読付)	共	2004年08月	Chemistry Letters 2004, 33(8), 1026-1027 (The Chemical Society of Japan)	2-ハロフェニルヒドラゾン化合物のパラジウム触媒分子内 Buchwald-Hartwig アミノ化反応を利用した、3 位置換インダゾール化合物合成。 (<u>Kiyofumi Inamoto</u> , Mika Katsuno, Takashi Yoshino, Ikue Suzuki, Kou Hiroya, and Takao Sakamoto*)
48. Palladium Catalyzed Arylation	共	2001年12月	Chemical Communicatio	パラジウム触媒による芳香族ハロゲン化物のマロン

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
of Malonate Accompanying <i>in situ</i> Dealkoxycarbonylation (査読付)			ns 2001, (24), 2704-2705 (Royal Society of Chemistry)	酸エステルとのカップリング反応と続く脱アルコキシカルボニル化反応を経由する、ワンポット“アリール酢酸”化合物合成。(Yoshinori Kondo,* Kiyofumi Inamoto, Masanobu Uchiyama, and Takao Sakamoto)
49. Photoinduced Cyclorelease for Condensed Heteroaromatic Synthesis (査読付)	共	2000年05月	Journal of Combinatorial Chemistry 2000, 2(3), 232-233 (American Chemical Society)	固相担体上での「パラジウム触媒 Mizoroki-Heck 反応」と続く「光照射によるアルケンの異性化～環化反応」というプロセス (光照射 cyclorelease) を利用した、2-quinolinone および coumarin 合成。(Yoshinori Kondo,* Kiyofumi Inamoto, and Takao Sakamoto)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 複素環構築を指向する有機合成化学	単	2017年03月	第1回武庫川女子大学薬学部・神戸薬科大学研究合同発表会 (西宮)	遷移金属を駆使した触媒的炭素-水素結合官能基化による複素環構築に関する、自身のこれまでの研究成果についての発表
2. 遷移金属触媒を駆使して複素環をつくる	単	2016年06月	第2回近畿薬学シンポジウム (大阪)	遷移金属触媒反応を利用した複素環構築法に関する、自身のこれまでの成果についての発表
3. 遷移金属触媒を用いた新規プロセスの開発と、その過程で見つけた遷移金属触媒を用いない反応	単	2013年08月	日本薬学会東北支部化学系薬学若手研究者セミナー (仙台)	これまでに見出した遷移金属触媒反応と、その過程で見出したメタルフリープロセスに関する発表。
4. 遷移金属触媒および有機分子触媒を駆使する不活性炭素-水素結合修飾反応：触媒の高度分子変換プロセスの開発	単	2013年03月	日本薬学会第133年会 (横浜)	「遷移金属触媒」および「有機分子触媒」を利用した C-H 官能基化に関する発表。
5. パラジウムを用いた触媒的炭素-水素結合官能基化を基盤とする新規分子変換プロセスの開発	単	2012年06月	日本薬学会東北支部学術講演会 (仙台)	パラジウムによる触媒的 C-H 官能基化を利用した種々の分子変換プロセス開発に関する発表。
6. パラジウム触媒による炭素-水素結合官能基化を利用した複素環合成	単	2010年09月	平成22年度化学系学協会東北大会 (盛岡)	触媒的 C-H 官能基化を利用した種々の複素環骨格構築法に関する発表。
2. 学会発表				
1. プロマジン誘導体に対する分子インプリントポリマーにおける保持および分子認識機構：ハロゲン結合の寄与	共	2020年03月	日本薬学会第140年会 (京都)	西村 奏咲, 来海 徹太郎, 稲本 浄文, 小林 祐輔, 竹本 佳司, 萩中 淳
2. 経口投与化を目指したペメトレキシドエステルプロドラッグの合成および評価	共	2020年03月	日本薬学会第140年会 (京都)	来海 徹太郎, 三好 加純, 葉山 登, 稲本 浄文, 宮崎 杏奈, 中村 光, 前川 智弘, 大鳥 徹, 松山 賢治
3. 親水性リンカーを用いた抗腫瘍性小分子ペプチドミメティクスの二量化	共	2020年03月	日本薬学会第140年会 (京都)	宮崎 杏奈, 長谷 日和, 葉山 登, 稲本 浄文, 日高 興士, 津田 裕子, 山之内 奈那, 福島 昭二, 来海 徹太郎
4. The Asymmetric Thia-Michael Addition of α, β -Unsaturated Carboxylic Acid	共	2019年12月	第12回有機触媒シンポジウム (京都)	Noboru Hayama, Eriko Sekimoto, Anna Miyazaki, Kiyofumi Inamoto, Yusuke Kobayashi, Yoshiji Takemoto, and Tetsutaro Kimachi
5. 経口投与化を目指したペメトレキシドメドキシソミルエステルプロドラッグの研究	共	2019年10月	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸)	三好 加純, 葉山 登, 稲本 浄文, 宮崎 杏奈, 中村 光, 前川 智弘, 大鳥 徹, 松山 賢治, 来海 徹太郎
6. ロジウム触媒開環反応による新規ベンゾチオフェン環構築法の開発	共	2019年10月	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸)	田中 咲妃, 水上 玲穂, 宮崎 杏奈, 葉山 登, 来海 徹太郎, 稲本 浄文
7. 多機能性ボロン酸触媒による不斉共役付加反応の開発とキラルスイッチ反応への展開	共	2019年10月	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸)	葉山 登, 宮崎 杏奈, 稲本 浄文, 小林 祐輔, 竹本 佳司, 来海 徹太郎
8. Synthesis of Pemetrexed Medoximil Ester Prodrugs Aiming for the Oral Administration	共	2019年09月	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress (京都)	Kasumi Miyoshi, Noboru Hayama, Kiyofumi Inamoto, Anna Miyazaki, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa, Toru Otori, Kenji Matsuyama, and Tetsutaro Kimachi
9. Synthesis of Benzo[b]thiophene-3-Carboxamides via Rhodium-Catalyzed Cyclization of (<i>ortho</i> -Alkynyl)phenyl Sulfides in the Presence of Isocyanates	共	2019年09月	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress (京都)	Akiho Mizukami, Maika Tsugita, Mako Shimora, Saki Tanaka, Noboru Hayama, Tetsutaro Kimachi, and Kiyofumi Inamoto
10. ロジウム触媒による開環反応を利用した、新規多置換ベンゾチオフェン骨格構築法の開発	共	2019年03月	日本薬学会第139年会 (千葉)	水上 玲穂, 次田 舞花, 下良 茉莉, 田中 咲妃, 宮崎 杏奈, 葉山 登, 来海 徹太郎, 稲本 浄文
11. 多機能性ボロン酸触媒を用いる α, β -不飽和カルボン酸の不斉チアマイケル付加反応の開発	共	2019年03月	日本薬学会第139年会 (千葉)	葉山 登, 関本 英里子, 宮崎 杏奈, 稲本 浄文, 小林 祐輔, 竹本 佳司, 来海 徹太郎

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
12. α , β -不飽和カルボン酸の不斉チアマイケル付加反応の開発	共	2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム (熊本)	葉山 登, 稲本 浄文, 小林 祐輔, 竹本 佳司, 來海 徹太郎
13. ロジウム触媒を利用する新規 2,3-二置換ベンゾチオフェン環構築法の開発	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会 (姫路)	稲本 浄文, 水上 玲穂, 次田 舞花, 下良 茉莉, 田中 咲妃, 宮崎 杏奈, 葉山 登, 來海 徹太郎
14. 経口投与化を目指したペメトレキセドのプロドラッグ化の研究	共	2018年03月	日本薬学会第138年会 (金沢)	佐野 令奈, 富田 英里, 泉 ありさ, 葉山 登, 宮崎 杏奈, 稲本 浄文, 太田 彪嗣, 大林 優夢, 坂井 裕美, 中村 光, 前川 智弘, 大鳥 徹, 松山 賢治, 來海 徹太郎
15. 経口投与化を目指したペメトレキセドのモノメドキシミル及びジメドキシミルエステルプロドラッグの合成と評価	共	2017年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸)	佐野 令奈, 富田 英里, 葉山 登, 宮崎 杏奈, 稲本 浄文, 太田 彪嗣, 大林 優夢, 坂井 裕美, 中村 光, 前川 智弘, 大鳥 徹, 松山 賢治, 來海 徹太郎
16. ロジウム触媒閉環反応を利用した新規 2,3-二置換ベンゾフラン合成法の開発	共	2017年10月	第47回複素環化学討論会 (高知)	水上 玲穂, 林 優奈, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
17. 経口投与化を目指したペメトレキセドのモノメドキシミル及びジメドキシミルエステルプロドラッグの合成と評価	共	2017年10月	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム (名古屋)	佐野 令奈, 富田 英里, 葉山 登, 宮崎 杏奈, 稲本 浄文, 太田 彪嗣, 大林 優夢, 坂井 裕美, 中村 光, 前川 智弘, 大鳥 徹, 松山 賢治, 來海 徹太郎
18. ロジウム触媒を用いた新規 2,3-二置換ベンゾフラン合成法の開発	共	2017年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸)	水上 玲穂, 林 優奈, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
19. α , β -不飽和カルボン酸への直截的不斉アザマイケル付加反応による糖尿病薬シタグリブチンの合成研究	共	2017年03月	日本薬学会第137年会 (仙台)	葉山 登, 関本 英里子, 西林 和也, 稲本 浄文, 來海 徹太郎, 小林 祐輔, 竹本 佳司
20. 2016年度薬学部初年次教育 (有機化学) における基礎学力強化教育の運用と評価	共	2017年03月	日本薬学会第137年会 (仙台)	西村 奏咲, 川崎 郁男, 稲本 浄文, 來海 徹太郎, 河井 伸之, 北山 友也, 三浦 健, 安井 菜穂美, 三木 知博
21. 新規ナフトキノ誘導体 6-TMNQ の血管新生および腫瘍増殖に対する抑制効果	共	2017年03月	日本薬学会第137年会 (仙台)	新屋 智寛, 山村 早紀, 前田 恭佳, 阪中 麻利子, 山下 裕佳, 葉山 登, 稲本 浄文, 來海 徹太郎, 高橋 悟
22. 銅触媒を用いた C-H 閉環反応によるキサンチン骨格の新規構築法の開発	共	2017年03月	日本薬学会第137年会 (仙台)	清水 麻希, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
23. ロジウム触媒閉環反応を用いた新規 2,3-二置換インドールおよびベンゾフラン合成法の開発	共	2017年03月	日本薬学会第137年会 (仙台)	水上 玲穂, 伊勢 悠見, 山内 彩樺, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
24. 含ハロゲンフェネチルアミンの Pd 触媒 C(sp ²)-H 結合選択的アミノカルボニル化	共	2016年11月	第110回有機合成シンポジウム (東京)	種田 宏, 稲本 浄文, 根東 義則
25. 触媒的 C-H 閉環反応による新規キサンチン類合成法の開発	共	2016年10月	第66回日本薬学会近畿支部総会・大会 (大阪)	清水 麻希, 山内 彩樺, 上田 紗希, 前田 奈美, 西内 亜理沙, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
26. ロジウム触媒によるタンデム型閉環-付加プロセスを利用した新規インドールおよびベンゾフラン誘導体合成法の開発	共	2016年10月	第66回日本薬学会近畿支部総会・大会 (大阪)	水上 玲穂, 山内 彩樺, 伊勢 悠見, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
27. 銅触媒を用いた分子内 C-H アミノ化による新規キサンチン骨格構築法の開発	共	2016年09月	第46回複素環化学討論会 (金沢)	清水 麻希, 山内 彩樺, 上田 紗希, 前田 奈美, 西内 亜理沙, 葉山 登, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
28. 銅触媒を用いた分子内 C-H アミノ化による新規キサンチン骨格構築法の開発	共	2016年03月	日本薬学会第136年会 (横浜)	清水 麻希, 山内 彩樺, 上田 紗希, 岩本 真奈, 西内 亜理沙, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
29. ロジウム触媒を用いた 2-エチルアニリン誘導体閉環によるインドール-3-カルボキサミド類の合成	共	2016年03月	日本薬学会第136年会 (横浜)	水上 玲穂, 伊勢 悠見, 來海 徹太郎, 稲本 浄文
30. 抗腫瘍活性天然化合物 Rhinacanthins O, P 側鎖の合成研究	共	2016年03月	日本薬学会第136年会 (横浜)	西内 亜理沙, 生島 瑞記, 柴山 友希, 島 綾花里, 清水 麻希, 岩本 真奈, 稲本 浄文, 來海 徹太郎
31. 含ハロゲンフェネチルアミンの Pd 触媒 C(sp ²)-H 結合選択的アミノカルボニル化	共	2015年11月	第45回複素環化学討論会 (東京)	種田 宏, 稲本 浄文, 根東 義則
32. 不斉アザマイケル-フッ素化連続反応の開発研究	共	2015年03月	日本薬学会第135年会 (神戸)	清水 麻希, 尾形 篤太郎, 岡島 真純, 金崎 麻衣, 西内 亜理紗, 稲本 浄文, 來海 徹太郎
33. 抗腫瘍活性天然物 Rhinacanthins の合成研究	共	2015年03月	日本薬学会第135年会 (神戸)	西内 亜理紗, 土江 美冴, 鳥居 恵理, 柴山 友希, 島 綾花里, 尾形 篤太郎, 稲本 浄文, 來海 徹太郎

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
34. オルトナフトキノン骨格を有する抗腫瘍活性天然物 Lantalucratin C の合成研究	共	2015年03月	日本薬学会第135年会 (神戸)	尾形 篤太郎, 田中 愛美, 石垣 百恵, 吉田 知世, 西内 亜理沙, 稲本 浄文, 来海 徹太郎
35. 抗腫瘍活性を有する天然物 Lantalucratin C の合成研究	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都)	田中 愛美, 尾形 篤太郎, 石垣 百恵, 吉田 知世, 西内 亜理沙, 稲本 浄文, 来海 徹太郎
36. 不斉アミノ化を起点とする新規なフッ素導入法の開発と環状アルカロイド類合成への応用	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都)	清水 麻季, 尾形 篤太郎, 岡島 真澄, 金崎 麻衣, 西内 亜理沙, 稲本 浄文, 来海 徹太郎
37. 活性化マクロファージの NO 産生を抑制するチオフェン-2-イルおよびチオフェン-3-イルナフトキノン類の合成	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都)	尾形 篤太郎, 岩本 まどか, 稲本 浄文, 西内 亜理沙, 来海 徹太郎
38. Madelung 型インドール合成の触媒的閉環プロセスの開発	共	2014年03月	日本薬学会第134年会 (熊本)	阿部 将大, 稲本 浄文, 根東 義則
39. ルテニウム触媒 C-H カルボニル化を用いたジベンゾピラノン骨格の新規構築法の開発	共	2013年11月	第39回反応と合成の進歩シンポジウム (福岡)	稲本 浄文, 門川 純, 吉川 晶子, 根東 義則
40. オニウムアミド塩基を用いた触媒的 C(sp ³)-H 脱プロトン化-修飾反応の開発	共	2013年11月	第39回反応と合成の進歩シンポジウム (福岡)	稲本 浄文, 種田 宏, 吉川 晶子, 根東 義則
41. ルテニウム触媒 C-H カルボニル化を利用したジベンゾピラノン骨格の新規合成法の開発	共	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 門川 純, 吉川 晶子, 根東 義則
42. ルテニウム触媒による C-H 閉環反応を利用した dibenzopyranone 類合成	共	2013年10月	第43回複素環化学討論会 (岐阜)	稲本 浄文, 門川 純, 根東 義則
43. 有機亜鉛試薬を用いた, 芳香複素環化合物の酸化的カルボニル化反応の開発	共	2013年10月	第43回複素環化学討論会 (岐阜)	藤村 英範, 吉川 晶子, 稲本 浄文, 根東 義則
44. 芳香族ケイ素化合物のカルボキシル化反応	共	2013年10月	第52回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	小林 みさと, 稲本 浄文, 根東 義則
45. Phosphazanium Salt Promoted Carboxylation of Aryltrimethylsilanes with CO ₂	共	2013年09月	10th International Symposium on Carbanion Chemistry (京都)	Misato Kobayashi, Kiyofumi Inamoto, and Yoshinori Kondo
46. Organocatalytic Functionalization Making Use of <i>in situ</i> Generated Onium Amide Bases	共	2013年09月	10th International Symposium on Carbanion Chemistry (京都)	Kiyofumi Inamoto, Hitomi Okawa, Yuta Araki, Misato Yonemoto, Shoko Kikkawa, and Yoshinori Kondo
47. Catalytic Deprotonative Functionalization of Heteroarenes by Using Onium Amide Bases	共	2013年06月	1st International Conference & 6th Symposium on Organocatalysis (大津)	Hitomi Okawa, Yutaro Hirono, Shoko Kikkawa, Kiyofumi Inamoto, and Yoshinori Kondo
48. Synthesis of 2-Quinolinones through a Tadem-Type, Pd(II)-Catalyzed Oxidative Heck Reaction /Intramolecular C-H Amidation Sequence	共	2013年05月	The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (長崎)	Kiyofumi Inamoto, Junpei Kawasaki, Kou Hiroya, Takayuki Doi, and Yoshinori Kondo
49. Carboxylation of Alkynylsilanes Using Carbon Dioxide Mediated by Cesium Fluoride	共	2013年05月	The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (長崎)	Misato Kobayashi, Kiyofumi Inamoto, and Yoshinori Kondo
50. Reactivity of Double-Activated Dialkylzinc Reagents with Fluoride Salts and Donor Solvents	共	2013年05月	The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (長崎)	Shoko Kikkawa, Hidenori Fujimura, Kiyofumi Inamoto, and Yoshinori Kondo
51. Deprotonative Functionalization of C(sp ³)-H Bonds Using Onium Amide Bases	共	2013年05月	1st International Conference & 6th Symposium on Organocatalysis (大津)	Kiyofumi Inamoto, Hiroshi Taneda, Shoko Kikkawa, and Yoshinori Kondo
52. 二酸化炭素またはイソシアネート類を C1 源としたシクロカルボキシル化を経由する 3-カルボキシルインドール誘導体合成	共	2013年03月	日本薬学会第133年会 (横浜)	稲本 浄文, 中村 悠花, 浅野 成美, 吉川 晶子, 根東 義則
53. p-ベンゾキノンとヨウ化ナトリウム触媒による 1,3-ジチアンの脱保護反応	共	2013年03月	日本薬学会第133年会 (横浜)	吉川 晶子, 山田 哲也, 加藤 盛一, 稲本 浄文, 根東 義則
54. オニウムアミド塩基を用いた C(s	共	2013年03月	日本薬学会第133年	稲本 浄文, 種田 宏, 吉川 晶子, 根東 義則

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
p ^o -H 脱プロトン化-修飾反応の 開発			会 (横浜)	
55. ルテニウム触媒 C-H カルボニル 化反応を用いたクマリン類の新規 合成法の開発	共	2013年03月	日本薬学会第133年会 (横浜)	稲本 浄文, 門川 純, 吉川 晶子, 根東 義則
56. 界面活性剤を用いた銅触媒による 水中での N-アリアル化反応	共	2012年11月	フルオラス科学研究会 第5回シンポジウム (仙台)	稲本 浄文, 門川 純, 野澤 佳菜子, 根東 義則
57. オニウムアミド塩基による触媒的 脱プロトン化-修飾反応の開発	共	2012年11月	第38回反応と合成の 進歩シンポジウム (東京)	稲本 浄文, 大川 ひとみ, 佐藤 菜央美, 種田 宏, 廣野 佑太郎, 米本 みさと, 吉川 晶子, 根 東 義則
58. パラジウム触媒 C-H アミノ化を 基盤とする新規 2-キノリノン類 合成法の開発	共	2012年10月	第42回複素環化学討 論会 (京都)	稲本 浄文, 川崎 順平, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行, 根東 義則
59. フッ化物塩の添加による有機亜鉛 試薬の活性化と反応	共	2012年10月	第51回日本薬学会東 北支部大会 (青森)	藤村 英範, 米本 みさと, 吉川 晶子, 稲本 浄 文, 根東 義則
60. 界面活性剤を用いた水中での銅触 媒 N-アリアル化反応	共	2012年10月	第42回複素環化学討 論会 (京都)	稲本 浄文, 門川 純, 野澤 佳菜子, 根東 義則
61. ヨウ化ナトリウム触媒と p-ベン ゾキノンによる 1,3-ジチアンの 脱保護反応	共	2012年10月	第42回複素環化学討 論会 (京都)	吉川 晶子, 山田 哲也, 加藤 盛一, 稲本 浄文 , 根東 義則
62. 有機触媒によるアミノシランの活 性化を介した芳香複素環化合物の 修飾反応	共	2012年10月	第42回複素環化学討 論会 (京都)	大川 ひとみ, 佐藤 菜央美, 廣野 佑太郎, 米本 みさと, 吉川 晶子, 稲本 浄文, 根東 義則
63. フッ化オニウムによるアミノシラン の活性化を介した芳香複素環の 修飾反応	共	2012年10月	第51回日本薬学会東 北支部大会 (青森)	大川 ひとみ, 廣野 佑太郎, 米本 みさと, 吉川 晶子, 稲本 浄文, 根東 義則
64. フッ化物イオンおよび DMSO を用 いた触媒的な亜鉛試薬の活性化	共	2012年06月	第23回万有仙台シン ポジウム (仙台)	吉川 晶子, 藤村 英範, 米本 みさと, 稲本 浄 文, 根東 義則
65. パラジウム触媒による C-H 結合 官能基化を基盤とする新規複素環 構築手法の開発	共	2012年06月	第101回有機合成シ ンポジウム (東京)	稲本 浄文, 川崎 順平, 野澤 佳菜子, 長谷川 千紗, 白石 貢, 廣谷 功, 土井 隆行, 根東 義 則
66. 有機触媒によるトリス (トリメチ ルシリル) アミンの活性化を介し た芳香複素環の修飾反応	共	2012年03月	日本薬学会第132年 会 (札幌)	大川 ひとみ, 米本 みさと, 廣野 佑太郎, 稲本 浄文, 根東 義則
67. ホスファゼニウムフルオリドを用 いたアルキルシランの触媒的芳 香族求核置換反応	共	2012年03月	日本薬学会第132年 会 (札幌)	佐々木 碧, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
68. フッ化物塩を触媒とするハロゲン 亜鉛交換反応	共	2012年03月	日本薬学会第132年 会 (札幌)	藤村 英範, 米本 みさと, 吉川 晶子, 稲本 浄 文, 根東 義則
69. ミセル系におけるアリアルボロン 酸の酸化的ヒドロキシル化反応	共	2012年03月	日本薬学会第132年 会 (札幌)	野澤 佳菜子, 稲本 浄文, 米本 みさと, 根東 義則
70. フッ化物塩によるアミド塩基発生 と触媒的脱プロトン化反応	共	2012年03月	日本薬学会第132年 会 (札幌)	佐藤 菜央美, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義則
71. オニウム塩触媒を用いる選択的分子 変換反応	共	2011年11月	第37回反応と合成の 進歩シンポジウム (徳島)	米本 みさと, 荒木 勇太, 廣野 佑太郎, 大川 ひとみ, 佐藤 菜央美, 稲本 浄文, 根東 義則
72. ジアステレオ選択的なケタール化 反応を基盤とした (-)-cepharami ne の不斉全合成研究	共	2011年11月	グローバル COE プログ ラム「分子系高次構造 体化学国際教育研究拠 点」シンポジウム (仙台)	廣谷 功, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行
73. ミセル系における芳香族ボロン酸 の銅触媒ヒドロキシル化反応	共	2011年11月	第100回有機合成シ ンポジウム (東京)	野澤 佳菜子, 稲本 浄文, 米本 みさと, 根東 義則
74. 界面活性剤を利用した銅触媒による アリアルボロン酸の酸化的ヒド ロキシル化反応	共	2011年11月	第37回反応と合成の 進歩シンポジウム (徳島)	野澤 佳菜子, 稲本 浄文, 米本 みさと, 根東 義則
75. ヨウ化金 (I) によるジチオアセ タール類の触媒的脱保護反応	共	2011年11月	第37回反応と合成の 進歩シンポジウム (徳島)	加藤 盛一, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
76. ホスファゼニルホスフィンオキシ ド触媒による有機ケイ素化合物活 性化を介した修飾反応	共	2011年11月	第37回反応と合成の 進歩シンポジウム (徳島)	松井 元志, 下 哲也, 米本 みさと, 稲本 浄文 , 根東 義則
77. 非対称化反応を用いた (-)-cepha ramine の不斉全合成研究	共	2011年10月	第50回記念日本薬学 会東北支部大会	廣谷 功, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
78. 2,2-二置換-1,3-シクロペンタジ オン誘導体の非対称化反応の開発	共	2011年10月	(仙台) 第50回記念日本薬学 会東北支部大会 (仙台)	廣谷 功, 三原 健, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土 井 隆行
79. ホスファゼニウムフルオリド P5F を触媒とするベンザインを介し た反応	共	2011年10月	第50回記念日本薬学 会東北支部大会 (仙台)	竹林 克紘, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
80. ホスファゼニウムホスフィンオキシ ド触媒を用いた有機ケイ素化合物 の活性化および修飾反応	共	2011年10月	第50回記念日本薬学 会東北支部大会 (仙台)	松井 元志, 下 哲也, 米本 みさと, 稲本 浄文 , 根東 義則
81. 遷移金属を用いた分子内炭素-水 素結合官能基化プロセスを経由す る 2-キノロン環構築法の開発	共	2011年10月	第50回記念日本薬学 会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 川崎 順平, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
82. 有機触媒を用いる複素環 N オキ シンドの変換反応	共	2011年10月	第41回複素環化学討 論会 (熊本)	荒木 勇太, 小林 耕士, 米本 みさと, 稲本 浄 文, 根東 義則
83. ホスファゼニウム P5 フルオリド によるベンザインを経由する反応	共	2011年10月	第41回複素環化学討 論会 (熊本)	竹林 克紘, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
84. 二酸化炭素を用いたシクロカルボ キシル化を経由する複素環合成	共	2011年10月	第41回複素環化学討 論会 (熊本)	浅野 成美, 稲本 浄文, 米本 みさと, 根東 義 則
85. オニウム塩触媒による炭素-炭素 結合形成反応	共	2011年10月	第50回記念日本薬学 会東北支部大会 (仙台)	米本 みさと, 荒木 勇太, 廣野 佑太郎, 松井 元志, 大川 ひとみ, 佐藤 菜央美, 稲本 浄文, 根東 義則
86. Synthesis of Benzothiazoles fr om Thiobenzanilides through a Pd-Catalyzed C-H Functionaliza tion/C-S Forming Cyclization P rocess	共	2011年09月	22nd French-Japanese Symposium of Medicina l and Fine Chemistry (ルーアン, フランス)	Kiyofumi Inamoto, Chisa Hasegawa, Junpei Kawasa ki, Kou Hiroya, Takayuki Doi, Yoshinori Kondo
87. Synthetic Studies of (-)-Cepha ramine Using a Desymmetrizatio n Reaction Based on Diastereos elective Ketalization	共	2011年08月	Tohoku University Glo bal COE Summer School 2011 (仙台)	Kou Hiroya, Yusuke Ichihashi, Kiyofumi Inamoto, and Takayuki Doi
88. フッ化オニウムによる炭素-炭素 結合形成反応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	米本 みさと, 廣野 佑太郎, 佐藤 菜央美, 稲本 浄文, 根東 義則
89. Onium Fluoride for C-C Bond Fo rmation Reaction	共	2011年08月	Tohoku University Glo bal COE Summer School 2011 (仙台)	Misato Yonemoto, Yutaro Hirono, Kiyofumi Inamot o, and Yoshinori Kondo
90. パラジウム触媒を用いた分子内炭 素-水素結合官能基化プロセスを 経由する 2-キノロン構築法の開 発	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	稲本 浄文, 川崎 順平, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
91. 有機分子触媒を用いる複素環 N オキシンドの変換反応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	荒木 勇太, 小林 耕士, 米本 みさと, 稲本 浄 文, 根東 義則
92. 有機超強塩基の合成研究とその応 用	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	松井 元志, 下 哲也, 米本 みさと, 稲本 浄文 , 根東 義則
93. 銅触媒を用いるアセチレンの効率 的二酸化炭素挿入反応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	浅野 成美, 小林 耕士, 米本 みさと, 稲本 浄 文, 根東 義則
94. 金触媒によるジチオアセタール類 の加水分解反応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	加藤 盛一, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
95. 界面活性剤を用いる芳香族ボロン 酸のヒドロキシル化反応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	野澤 佳菜子, 稲本 浄文, 米本 みさと, 根東 義則
96. ホスホニウム塩触媒を用いたベン ザインを介する Diels-Alder 反 応	共	2011年08月	第28回有機合成化学 セミナー (天童)	竹林 克紘, 米本 みさと, 稲本 浄文, 根東 義 則
97. Synthesis of 2-Substituted Ben zothiazoles via Palladium-Cata lyzed C-H Functionalization/C- S Bond Formation	共	2011年07月	16th IUPAC Internatio nal Symposium on Orga nometallic Chemistry Directed Towards Orga nic Synthesis (OMCOS 16) (上海)	Kiyofumi Inamoto, Chisa Hasegawa, Junpei Kawasa ki, Kou Hiroya, Takayuki Doi, and Yoshinori Kon do
98. 2,2-二置換 1,3-cyclopentanedio ne 誘導体の非対称化反応を用い	共	2011年03月	日本薬学会第131年 会	廣谷 功, 三原 健, 諏訪 好泰, 市橋 佑介, 稲 本 浄文, 土井 隆行

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
る不斉第四級炭素構築法の開発			(静岡)	
99. パラジウム触媒による C-H 閉環ベンゾチアゾール合成における酸素の再酸化剤としての利用	共	2011年03月	日本薬学会第131年会 (静岡)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 川崎 順平, 廣谷 功, 土井 隆行
100. ジアステレオ選択的なケタール化反応を利用した 1,3-cyclohexanedione の非対称化反応の開発	共	2011年03月	日本薬学会第131年会 (静岡)	廣谷 功, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行
101. パラジウム触媒を用いた C-H 閉環反応によるベンゾチアゾール合成	共	2010年11月	創薬懇話会 2010 in 蔵王 (蔵王)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 川崎 順平, 廣谷 功, 土井 隆行
102. 非対称化を用いた (+)-Lycopladi n A の全合成	共	2010年10月	第40回複素環化学討論会 (仙台)	廣谷 功, 諏訪 好泰, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行
103. パラジウム触媒を用いた C-H 閉環反応における酸素の再酸化剤としての利用	共	2010年10月	第40回複素環化学討論会 (仙台)	稲本 浄文, 川崎 順平, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
104. パラジウム触媒による分子内 C-H 官能基化を利用したベンゾチアゾール環構築	共	2010年09月	平成22年度化学系学協会東北大会 (盛岡)	稲本 浄文, 川崎 順平, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
105. 酸素を再酸化剤として利用するパラジウム触媒を用いた C-H 官能基化によるベンゾチアゾール合成	共	2010年03月	日本薬学会第130年会 (岡山)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 川崎 順平, 廣谷 功, 土井 隆行
106. 不斉非対称化反応を用いた (+)-L ycopladine A の全合成	共	2010年03月	日本薬学会第130年会 (岡山)	廣谷 功, 諏訪 好泰, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行
107. パラジウム触媒による分子内炭素-水素結合官能基化を利用した新規ベンゾチアゾール環構築法の開発	共	2009年11月	第96回有機合成シンポジウム (東京)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 川崎 順平, 廣谷 功, 土井 隆行
108. 非対称化反応を用いた (-)-Cepharamine の不斉全合成研究	共	2009年11月	第35回反応と合成の進歩シンポジウム (金沢)	廣谷 功, 市橋 佑介, 猪飼 哲朗, 関岡 竜一, 稲本 浄文, 土井 隆行
109. 非対称化反応を基盤とする不斉第四級炭素構築法の開発	共	2009年11月	第35回反応と合成の進歩シンポジウム (金沢)	廣谷 功, 市橋 佑介, 諏訪 好泰, 猪飼 哲朗, 稲本 浄文, 土井 隆行
110. パラジウム触媒を用いた分子内 T suji アリル化反応によるベータ-アルケニル-アルファ-アリーールシクロペンタノン誘導体の不斉合成とその応用	共	2009年11月	第35回反応と合成の進歩シンポジウム (金沢)	廣谷 功, 星野 恒文, 中村 優子, 稲本 浄文, 土井 隆行
111. パラジウム触媒による C-H アミノ化反応を利用した 4-アリーール-2-キノロン類合成	共	2009年10月	第48回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
112. パラジウム触媒による炭素-水素結合活性化と続く分子内アミノ化反応を利用した効率的 2-キノロン誘導体合成法の開発	共	2009年10月	第39回複素環化学討論会 (柏)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
113. 非対称化反応を基盤とした不斉第四級炭素構築法の開発	共	2009年10月	第48回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	廣谷 功, 市橋 佑介, 諏訪 好泰, 猪飼 哲朗, 稲本 浄文, 土井 隆行
114. Palladium-Catalyzed C-H Functionalization for the Synthesis of Heterocyclic Compounds	共	2009年09月	第56回有機金属化学討論会 (京都)	Kiyofumi Inamoto, Tadataka Saito, Chisa Hasegawa, Junpei Kawasaki, Kou Hiroya, Takayuki Doi
115. Synthesis of Nitrogen-Based Heterocyclic Compounds via Palladium-Catalyzed C-H Functionalization	共	2009年07月	15th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 15) (グラスゴー, イギリス)	Kiyofumi Inamoto, Tadataka Saito, Chisa Hasegawa, Kou Hiroya, Takayuki Doi
116. パラジウム触媒による炭素-水素結合活性化と続く分子内炭素-硫黄結合形成反応を利用する新規ベンゾチアゾール環構築法の開発	共	2009年06月	第6回東北大学バイオサイエンスシンポジウム	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
117. パラジウム触媒による炭素-水素結合官能基化を利用した効率的複素環化合物構築手法の開発	共	2009年06月	第95回有機合成シンポジウム (東京)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
118. パラジウム触媒による炭素-水素結合活性化と続く分子内炭素-硫黄結合形成反応を利用する, 新規ベンゾチアゾール環構築法の開発	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 (京都)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
119. パラジウム触媒による炭素－水素結合活性化を利用した効率的含窒素複素環化合物構築法の開発	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 (京都)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
120. パラジウム触媒を用いた分子内 T suji-Trost 反応によるベータ-アルケニル-アルファ-アリーールシクロペンタノン誘導体の不斉合成研究	共	2009年03月	日本薬学会第129年会 (京都)	廣谷 功, 星野 恒文, 中村 優子, 稲本 浄文, 土井 隆行
121. パラジウム触媒による炭素－水素結合活性化を利用した効率的含硫黄複素環化合物構築法の開発	共	2008年11月	第27回メディシナルケミストリーシンポジウム (大阪)	稲本 浄文, 荒井 ゆかり, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
122. 非対称化反応を基盤とする不斉第四級炭素構築法を用いた (-)-Cepharamine の全合成研究	共	2008年11月	第38回複素環化学討論会 (福山)	廣谷 功, 関岡 竜一, 稲本 浄文, 土井 隆行
123. パラジウム触媒炭素－水素結合活性化を利用する新規置換インドール類合成法の開発	共	2008年11月	第38回複素環化学討論会 (福山)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 廣谷 功, 土井 隆行
124. パラジウム触媒炭素－水素結合活性化を利用する効率的含硫黄複素環化合物構築法の開発	共	2008年11月	第38回複素環化学討論会 (福山)	稲本 浄文, 荒井 ゆかり, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
125. シリルケテンアセタールの 2-ピリジノン誘導体への求核付加反応を基盤とする含窒素生理活性化化合物の合成研究	共	2008年11月	第27回メディシナルケミストリーシンポジウム (大阪)	廣谷 功, 川本 啓, 稲本 浄文, 土井 隆行
126. NHC 由来 pincer 型ニッケル錯体の合成とその触媒機能の開発	共	2008年10月	第34回反応と合成の進歩シンポジウム (京都)	黒田 潤一, 稲本 浄文, 廣谷 功, 土井 隆行
127. 対称化合物の非対称化反応による不斉第四級炭素構築法の開発とその応用	共	2008年10月	第34回反応と合成の進歩シンポジウム (京都)	廣谷 功, 市橋 佑介, 諏訪 好泰, 川住 宗生, 稲本 浄文, 土井 隆行
128. 白金触媒を用いるアセチレンの位置選択的水和反応の開発	共	2008年10月	第34回反応と合成の進歩シンポジウム (京都)	廣谷 功, 荻原 謙太郎, 稲本 浄文, 土井 隆行
129. パラジウム触媒炭素－水素結合活性化と続く分子内炭素－硫黄結合形成反応を利用する, 新規ベンゾチアゾール環構築法の開発	共	2008年10月	第47回日本薬学会東北支部大会 (岩手)	稲本 浄文, 長谷川 千紗, 廣谷 功, 土井 隆行
130. 白金触媒を用いるアセチレンの位置選択的水和反応の開発	共	2008年10月	第47回日本薬学会東北支部大会 (岩手)	廣谷 功, 荻原 謙太郎, 稲本 浄文, 土井 隆行
131. パラジウム触媒を用いたチオエノール類からの直接的ベンゾチオフェン化合物合成法の開発	共	2008年10月	第47回日本薬学会東北支部大会 (岩手)	稲本 浄文, 荒井 ゆかり, 廣谷 功, 土井 隆行
132. 非対称化を基盤とする不斉第四級炭素構築法を用いた (-)-Cepharamine の全合成研究	共	2008年10月	平成20年度化学系学協会東北大会 (青森)	廣谷 功, 関岡 竜一, 稲本 浄文, 土井 隆行
133. パラジウム触媒閉環反応を利用する新規ベンゾチオフェン環構築法の開発	共	2008年10月	平成20年度化学系学協会東北大会 (青森)	稲本 浄文, 荒井 ゆかり, 廣谷 功, 土井 隆行
134. ベータ-オキソエノンに対する核間位不斉炭素構築法の開発とその応用	共	2008年10月	平成20年度化学系学協会東北大会 (青森)	廣谷 功, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 土井 隆行
135. Michael Addition of Silyl Ketene Acetal to 2-Pyridinone Derivatives: Reactivity and Application to Synthetic Study of Awanomycin	共	2008年06月	17th International Symposium on Organic Synthesis (デジョン, 韓国)	Kou Hiroya, Kei Kawamoto, Kiyofumi Inamoto, Takayuki Doi
136. Synthesis and Catalytic Activity of N-Heterocyclic Carbene-Derived Pincer-Type Nickel(II) Complexes	共	2008年06月	17th International Symposium on Organic Synthesis (デジョン, 韓国)	Kiyofumi Inamoto, Jun-ichi Kuroda, Kou Hiroya, Takayuki Doi
137. パラジウム触媒炭素－水素結合活性化を経由する, 置換インドールおよびベンゾチオフェン類の合成	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 (横浜)	稲本 浄文, 荒井 ゆかり, 齋藤 孔隆, 坂本 尚夫, 廣谷 功
138. Peperomia Duclouxii から単離されたポリケチドの不斉全合成研究	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 (横浜)	廣谷 功, 市橋 佑介, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
139. 非対称化による不斉第四級炭素構築法を基盤とする (-)-Cepharamine の全合成研究	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 (横浜)	廣谷 功, 関岡 竜一, 淵野 光記, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
140. 分子内アリル化反応を基盤とする	共	2008年03月	日本薬学会第128年	廣谷 功, 中村 優子, 稲本 浄文, 坂本 尚夫

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
多環性キノロン誘導体の合成研究			会 (横浜)	
141. 白金触媒を用いるアセチレンの位置選択的水和反応の開発	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 (横浜)	廣谷 功, 荻原 謙太郎, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
142. パラジウム触媒炭素-水素結合活性化・分子内アミノ化反応を利用した, 新規インダゾール合成法の開発	共	2008年03月	日本薬学会第128年会 (横浜)	稲本 浄文, 齋藤 孔隆, 勝野 良佳, 坂本 尚夫, 廣谷 功
143. NHC 由来 pincer 型ニッケル錯体の合成とその触媒反応への応用	共	2007年11月	第33回反応と合成の進歩シンポジウム (長崎)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 坂本 尚夫, 廣谷 功
144. 2-ピリジノン誘導体の官能基化法の開発と Awajanomycin の合成研究	共	2007年11月	第33回反応と合成の進歩シンポジウム (長崎)	廣谷 功, 川本 啓, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
145. 核間位第四級炭素構築法の開発と Trichothecene 骨格を有する天然物 Scripene の全合成への応用	共	2007年10月	第46回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	廣谷 功, 古殿 愛, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
146. 抗腫瘍活性天然物 Stephacidin A の不斉全合成研究	共	2007年10月	第46回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	廣谷 功, 小池 磨由, 松本 重充, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
147. Pincer 型カルベンを配位子とする鉄錯体の合成と触媒反応への応用	共	2007年10月	第46回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 山本 明生, 廣谷 功, 坂本 尚夫
148. 分子内アリル化反応を利用するベンジル位不斉 4 級炭素構築法の開発と応用	共	2007年10月	第46回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	廣谷 功, 中村 優子, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
149. Catalytic Activities of a Pincer-Type Bis(imidazolin-2-ylidene) Nickel(II) Complex in Cross-Coupling Reactions of Aryl Halides	共	2007年08月	14h IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 16) (奈良)	Kiyofumi Inamoto, Jun-ichi Kuroda, Takao Sakamoto, Kou Hiroya
150. Pd(II)-Catalyzed C-H Activation/Intramolecular Amination Reaction: A New Route to 3-Substituted Indazoles	共	2007年08月	14h IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 16) (奈良)	Kiyofumi Inamoto, Tadataka Saito, Mika Katsuno, Takao Sakamoto, Kou Hiroya
151. 10 ヶ月にわたるアメリカ・MITでの研究生生活を終えて	単	2007年07月	第42回天然物化学談話会 (仙台)	稲本 浄文
152. Pincer型カルベンリガンドを用いるニッケル触媒クロスカップリング反応の検討	共	2007年03月	日本薬学会第127年会 (富山)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 廣谷 功, 坂本 尚夫
153. Investigation of Transition Metal-Catalyzed Reactions Using Pincer-Type N-Heterocyclic Carbene Ligands	共	2005年12月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (ホノルル, ハワイ)	Kiyofumi Inamoto, Jun-ichi Kuroda, Tomohiro Danjo, Takao Sakamoto
154. Combination of Nickel/N-Heterocyclic Carbene (NHC) as a Novel Catalyst System for the Nickel-Catalyzed Heck Reaction	共	2005年12月	2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (ホノルル, ハワイ)	Kiyofumi Inamoto, Jun-ichi Kuroda, Tomohiro Danjo, Takao Sakamoto
155. 分子内パラジウム触媒反応による効率的縮合複素環化合物構築法の開発と応用	共	2005年11月	第31回反応と合成の進歩シンポジウム (神戸)	稲本 浄文, 勝野 良佳, 廣谷 功, 坂本 尚夫
156. カルベンをリガンドとして用いるニッケル触媒反応の開発	共	2005年09月	平成17年度化学系学協会東北大会 (仙台)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 檀上 友浩, 坂本 尚夫
157. N-ヘテロサイクリックカルベンリガンドを用いる遷移金属触媒反応の検討	共	2005年05月	第16回万有仙台シンポジウム (仙台)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 檀上 友浩, 坂本 尚夫
158. N-ヘテロサイクリックカルベンを配位子とする新規遷移金属触媒反応の開発	共	2005年05月	第3回次世代を担う有機化学シンポジウム (東京)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 檀上 友浩, 坂本 尚夫
159. N-ヘテロサイクリックカルベンを配位子とする遷移金属触媒反応の検討	共	2005年03月	日本薬学会第125年会 (東京)	稲本 浄文, 黒田 潤一, 檀上 友浩, 坂本 尚夫
160. パラジウム触媒反応を用いる新規縮合複素環構築法の開発	共	2004年11月	第34回複素環化学討論会 (金沢)	稲本 浄文, 廣谷 功, 大澤 一利, 吉野 崇, 勝野 良佳, 根東 義則, 坂本 尚夫

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
161. 酸素原子置換アレンのパラジウム触媒による閉環反応の開発	共	2004年10月	第43回日本薬学会東北支部大会 (秋田)	廣谷 功, 明石 隆信, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
162. ヘテロ原子置換アレンを用いるヘテロ環化合物合成法の開発と応用	共	2004年10月	第30回反応と合成の進歩シンポジウム (札幌)	稲本 浄文, 廣谷 功, 大澤 一利, 坂本 尚夫
163. Pd 触媒アミノ化反応を鍵とした Nigellidine の合成研究	共	2003年10月	第42回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 吉野 崇, 廣谷 功, 鈴木 郁恵, 坂本 尚夫
164. Pd 触媒によるインダゾール環構築と Nigellidine 合成への応用	共	2003年10月	第33回複素環化学討論会 (札幌)	稲本 浄文, 吉野 崇, 廣谷 功, 鈴木 郁恵, 坂本 尚夫
165. Pd 触媒アミノ化反応によるインダゾール環構築とその Nigellidine 合成への応用	共	2003年03月	日本薬学会第123年会 (長崎)	稲本 浄文, 鈴木 郁恵, 廣谷 功, 坂本 尚夫
166. パラジウム触媒を用いるヘテロ環新合成法の開発	共	2002年12月	第32回複素環化学討論会 (徳島)	稲本 浄文, 鈴木 郁恵, 廣谷 功, 坂本 尚夫
167. ヘテロ原子置換アレンを用いた位置選択的 Pd 触媒閉環反応とその応用	共	2002年03月	日本薬学会第122年会 (千葉)	稲本 浄文, 廣谷 功, 大澤 一利, 中澤 哲郎, 坂本 尚夫
168. 高分子固定化活性メチレンを用いる Pd 触媒クロスカップリング反応	共	2000年03月	日本薬学会第120年会 (岐阜)	稲本 浄文, 坂本 尚夫, 根東 義則
169. 光シクロリース反応を用いるヘテロ環化合物の固相合成	共	1999年11月	第30回複素環化学討論会 (東京)	根東 義則, 稲本 浄文, 坂本 尚夫
170. 光閉環反応を利用するヘテロ環化合物の固相合成	共	1999年10月	第38回日本薬学会東北支部大会 (仙台)	稲本 浄文, 坂本 尚夫, 根東 義則
3. 総説				
1. Synthesis of Heterocyclic Compounds through Palladium-Catalyzed C-H Cyclization Processes	単	2013年10月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin 2013, 61(10), 987-996 (The Pharmaceutical Society of Japan)	パラジウムを用いた触媒的 C-H 閉環反応を利用した複素環合成に関する自身の研究成果をまとめた総説.
2. パラジウム触媒による炭素-水素結合官能基化 ~インダゾール, インドール, ベンゾチオフェン, ベンゾチアゾールの環構築~	共	2010年03月	ファルマシア 2010, 46(3), 229-234 (日本薬学会)	パラジウム触媒による C-H 官能基化を利用する複素環化合物合成についての総説. (稲本 浄文,* 廣谷 功, 土井 隆行*)
3. パラジウム触媒アミノ化反応を基盤とする効率的インダゾール合成法の開発と応用	単	2008年07月	薬学雑誌 2008, 128(7), 997-1005 (日本薬学会)	パラジウム触媒による "Buchwald-Hartwig アミノ化" と "C-H アミノ化" という 2 つの手法を用いたインダゾール環構築法に関する総説.
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. C-H 閉環プロセスによる複素環構築を基軸とした未踏分子変換プロセスへの挑戦	単	2019年04月から2022年03月まで (予定)	科研費	基盤研究 (C)
2. 遷移金属を用いた触媒的 C-H 官能基化による「新規複素環構築法創出研究」の新展開	単	2018年度	武田科学振興財団	2018年度薬学系研究助成
3. 触媒的 C-H 官能基化を基盤とする高効率複素環構築法の開発研究	単	2016年04月から2019年03月まで	科研費	基盤研究 (C)
4. 遷移金属触媒による炭素-水素結合活性化を基盤とした革新的分子構築法の開発	単	2016年度	ひょうご科学技術協会	学術研究助成
5. 触媒的炭素-水素結合官能基化を基盤とする複素環合成	単	2014年度	上原記念生命科学財団	研究奨励金
6. 有機分子触媒による脱プロトン化を基盤とする新規分子修飾法の開発と不斉反応への展開	単	2014年度	有機合成化学協会	中外製薬研究企画賞
7. 新規複素環構築法創出を指向する触媒的炭素-水素結合活性化に関する研究	単	2013年04月から2016年03月まで	科研費	基盤研究 (C)
8. パラジウムを用いた触媒的炭素-	単	2013年度	インテリジェント・コ	第12回インテリジェント・コスモス奨励賞

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
水素結合官能基化を基盤とする高効率的分分子変換プロセスの開発研究			スモス学術振興財団	
9. パラジウム触媒 C-H 官能基化を基盤とする複素環構築の新展開	単	2011年04月 から2013年0 3月まで	科研費	若手研究 (B)
10. 触媒的炭素-水素結合 (C-H) 活性化を基盤とする高効率・革新的複素環構築プロセスの確立と体系化	単	2011年度	有機合成化学協会	アステラス製薬研究企画賞
11. パラジウム触媒「炭素-水素結合活性化」の実用的活用～高効率的分分子構築法を目指して	単	2008年04月 から2010年0 3月まで	科研費	若手研究 (B)
12. パラジウム触媒炭素-水素結合活性化を基盤とする新規効率的分子構築法の開拓	単	2007年度	東北大学グローバルC OEプログラム「分子 系高次構造体化学国際 教育研究拠点」	若手研究奨励費
13. アルキンへの求核攻撃による閉環反応の展開および生理活性化化合物全合成への応用	共	2006年04月 から2008年0 3月まで	科研費	基盤研究 (B) (研究分担者)

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年5月	第25回山下太郎学術研究奨励賞 受賞
2. 2013年12月	有機合成化学協会中外製薬研究企画賞 受賞
3. 2013年07月	東北大学大学院薬学研究科研究科長賞 受賞
4. 2013年05月	第12回インテリジェント・コスモス奨励賞 受賞
5. 2013年03月	平成25年度日本薬学会奨励賞 受賞
6. 2013年度から	日本化学会 会員
7. 2011年12月	有機合成化学協会アステラス製薬研究企画賞 受賞
8. 2009年07月	東北大学大学院薬学研究科研究科長賞 受賞
9. 2009年度から	有機合成化学協会 会員
10. 2007年10月	日本薬学会東北支部奨励賞 受賞
11. 2000年度から	日本薬学会 会員